

平成 30（2018）年度 奨励研究

住民との協働による能動的学修の展開

～今金町美利河地区をフィールドとしたプロジェクト学習の推進～

事業報告書

札幌国際大学

目 次

I	研究概要	1
	1 研究の目的	
	2 研究組織	
	3 推進体制	
	4 調査研究スケジュール	
II	活動概況	3
	1 第1回 合同フィールドワーク（7月21日～22日）	
	2 第2回 テーマ別フィールドワーク（9月～11月）	
	3 第3回 合同フィールドワーク（11月17日～18日）	
	4 第4回 報告・意見交換会（2月12日）	
III	プロジェクトの成果と課題 ～調査研究を振り返って～	11
IV	資料	17
	1 美利河地区の地域振興に関する期待度調査	
	2 学生ふりかえりレポート	

I 研究概要

1 研究の目的

本学と地域連携事業の協定を結ぶ檜山管内今金町は、肥沃な土壌や気候の恩恵を受け農業が盛んで日本一の「今金男爵」をはじめ多くの農産物を生産している。また、「日本一のきれいな川」として、その清らかさを誇っている後志利別川などの美しい自然環境や、ピリカ遺跡などの歴史的に価値ある場所も数多く残されている。しかし、同町の美利河地区は、奥ピリカ温泉やスキー場の閉鎖など、地域資源を十分に活用することができず、地域の再生が重要な課題となっている。

そこで、昨年度、同町美利河地区をフィールドとして「健康」「歴史」「観光」をキーワードに、地域課題の解決方策を同町の中学生や町民と協議し、提案を行った。今年度は、提案内容（プロジェクト）を現実のものとするための情報収集、試行検証を重ねる。こうした課題設定、計画立案、実施、反省・評価の一連の過程を通して、プロジェクト学習の教育効果や推進のための資料を得ることを目的とする。

2 研究組織

本研究は、以下の者が担当する。

(代表) スポーツ人間学部スポーツビジネス学科 教授 佐久間 章
観光学部観光ビジネス学科 教授 横田 久貴
観光学部観光ビジネス学科 准教授 千葉 里美
スポーツ人間学部スポーツ指導学科 准教授 新井 貢
スポーツ人間学部スポーツ指導学科 講師 本多 理紗
人文学部現代文化学科 准教授 坂梨 夏代
縄文世界遺産研究室 室長 越田 賢一郎

3 推進体制

本研究は、札幌国際大学と今金町の共同研究であることから、それぞれ以下の推進体制により、研究を進める。

《 札幌国際大学 》

■スポーツビジネス学科 学生 6名 担当教員 佐久間章

■スポーツ指導学科 学生 3名 担当教員 新井貢、本多理紗

■現代文化学科 学生 2名 担当教員 坂梨夏代、越田賢一郎

■観光ビジネス学科 学生 2名、国際観光学科 学生 2名、担当教員 横田久貴、千葉里美

《 今金町 》 まちづくり推進課 課長 寺崎康史

課長補佐 早坂 靖

企画政策グループ 主事 植村亜耶

地域おこし協力隊 木元 希

4 調査研究スケジュール

3月下旬 次年度プロジェクトについての協議（今金町）

6月（清麗祭） 合同会議 ※実施計画について（大学）

第1回 合同フィールドワーク 7月21日～22日

美利河地区の現地見学及び協議（今金町）

- ・今金町美利河地区のプロジェクト実施地域の現状視察
- ・「ピリカ祭」来訪者へのプロジェクト期待度調査

第2回 フィールドワーク 9月～11月

プロジェクトに関わる情報収集（道内各地）

- ・テーマ別にグループワーク

※担当プロジェクト毎に、情報収集のためのフィールドワークを実施するとともに大学において適宜チーム会議を開催し、発表データ等の作成を行う。

第3回 合同フィールドワーク 11月17日～18日

情報提供及び協議（今金町）

- ・今金町美利河地区のプロジェクト実施に向けての情報提供として、各学科ごとに道内各地で行ったフィールドワークの結果について発表・報告する。
- ・今金町の実行委員会メンバーとの意見交換及び協議

第4回 報告・意見交換会 2月12日

今金町美利河プロジェクト実行委員会からの報告及び意見交換（札幌国際大学）

- ・今年度の同町の実行委員会における検討状況についての報告を受け次年度以降へのアクションプランの策定に向けて、学生・教員との意見交換を行う。

3月18日 担当者打ち合わせ

今年度の成果報告と次年度の取組についての協議（於：今金町）

II 活動概況

1 第1回 合同フィールドワーク 7月21日～22日

(1) 目的 今金町美利河地区におけるプロジェクト実施地域の現状を把握する。また、「ピリカ祭」来訪者へのプロジェクトに関する期待度を調査し、今後のプロジェクト推進アクションプラン作成の参考資料を得る。

(2) 日程

時間	1日目 (7/21日)	2日目 (7/22日)
7:00	8時30分大学出発	
8:00		<ul style="list-style-type: none"> ・今金町美利河地区において「ピリカ祭」参加者への期待度調査
9:00	大学～今金町に移動	
10:00		
11:00		
12:00	昼食 (クアプラザピリカ)	次回の打合せ
13:00	調査日程等・説明	今金町～大学へ移動
14:00		※大学到着 16時30分予定
15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・今金町美利河地区においてプロジェクト実施予定地域の現地調査 	
16:00		
17:00		
18:00	夕食 (ホテルいまかね)	
19:00	本日の調査報告	
20:00	翌日の調査確認	
21:00		
宿泊先	ホテルいまかね	

(3) 活動概況

第1日 (7月21日)

■ 現地調査



・ピリカ旧石器文化館



・美利河ダム

・ピリカスキー場

第2日 (7月17日)

■ 期待度調査



ピリカダム会場①



ピリカダム会場②



クアプラザ会場①



クアプラザ会場②



旧石器文化館会場



メイン会場ステージで説明する学生

2 第2回 フィールドワーク 9月～11月

(1) 目的 担当プロジェクト毎に、情報収集のためのフィールドワークを実施する。
大学において適宜チーム会議を開催し、発表データ等を作成する。

(2) プロジェクトと担当学科

①ピリカスキー場「菜の花一面プロジェクト」 スポーツビジネス学科

■「JA たきかわ直売所 菜の花館」において、菜の花関連商品についての調査。



■「空知農業改良普及センター」において、菜の花栽培の留意点等を情報収集。



②水上ライブ／ピリカマルシェ 観光ビジネス学科・国際観光学科

■「剣淵町 Viva マルシェ」担当者へのヒアリング調査。



■えこまち推進協議会主催「観光塾」に参加し、まちづくりについてのヒアリング調査。

③ピリカ旧石器をテーマとした「スタンプラリー」 現代文化学科

■「千歳科学技術大学曾我研究室」へのヒアリング調査。

■アプリ開発の「RALLY」へのヒアリング調査。

④ウォールアート／ピリカスロン スポーツ指導学科

■ウォールアート制作会社へのヒアリング調査。

■ノルベサのウォールアートを実施調査。

3 第3回 合同フィールドワーク 11月17日～18日

(1) 目的 今金町美利河地区のプロジェクト実施に向けての情報提供として、学科ごとに道内各地で行ったフィールドワークの結果について発表・報告する。また、今金町の実行委員会メンバーとの意見交換及び協議を行う。

(2) 日程

11月17日(土)

12:00	今金町民センター着 午後のFWについての打ち合わせ
13:00	実行委員会の発表に向けてのリハーサル等の準備
17:00	夕食
18:00～21:00	実行委員会

7月18日(日)

9:00	旧石器文化館着
9:30	創作プログラムの体験
11:30	クアプラザピリカ移動・昼食・ふりかえり
13:00	クアプラザピリカ発
16:30	大学着・解散

(3) 活動概況

第1日 (11月17日) _____



プレゼンテーションの準備

18:00～21:00 実行委員会

■学生による情報提供（フィールドワーク結果の発表・報告）



■実行委員会メンバーとの意見交換及び協議



■創作プログラムの体験



4 第4回 報告・意見交換会 2月12日(火) 14時～16時

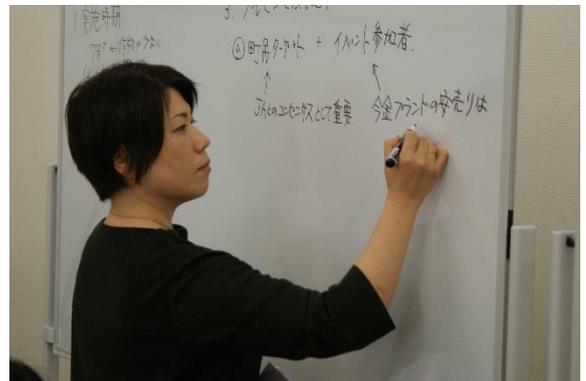
(1) 目的 今年度の同町の実行委員会における検討状況についての報告を受け、次年度以降へのアクションプランの策定に向けて、学生・教員との意見交換を行う。

(2) 日程 14時00分～16時00分

- ・学長挨拶
- ・実行委員長あいさつ
- ・実行委員会活動報告
- ・アクションプランに向けての協議及び意見交換
- ・まとめとふりかえり



(3) 活動概況



Ⅲ プロジェクトの成果と課題 ～調査研究を振り返って～

1 研究の経緯と成果

檜山管内今金町は、肥沃な土壌や気候の恩恵を受け農業が盛んで日本一の「今金男爵」をはじめ多くの農産物を生産している。また、「日本一きれいな川」として、その清らかさを誇っている後志利別川などの美しい自然環境や、ピリカ遺跡などの歴史的に価値ある場所も数多く残されている。しかし、同町美利河地区は、奥ピリカ温泉やスキー場の閉鎖など、地域資源を十分に活用することができず、地域の再生が重要な課題となっている。そこで、去年は、美利河地区をフィールドとして「健康」「歴史」「観光」をキーワードに、地域課題の解決策を、次代を担う今金町の子供たちと協議・提案するというプロジェクトを行った。本学の有する学科の学びを生かすことができるように、キーワードに関連する学科から学生を選出し、ファシリテーターとして子供たちの学びの支援にあたった。こうした活動により、学内での学びを生かし、学生が学外での能動的学修（アクティブ・ラーニング）を展開する上での、効果や課題等の資料を得ることを目的として取組を進めた。

最終的に、中学生が提案したのは以下の7つのプロジェクトであった。

【健康】 スポーツ指導学科、スポーツビジネス学科

高齢化の進展する今金町において、美利河地区を活用した町民の健康増進方策を検討する

【プロジェクト No. 1】ピリカスロン

【プロジェクト No. 2】ピリカマルシェ

【プロジェクト No. 3】水上ライブ

【プロジェクト No. 4】ウォールアート

【歴史】 現代文化学科

美利河地区が有する歴史・文化的な資源を、保護・活用および伝承するとともに、今金町における歴史文化の発信を考える。

【プロジェクト No. 5】ピリカスタンプラリー

【観光】 観光ビジネス学科

北海道新幹線の延伸は、道南エリアの観光振興に大きな期待が寄せられている。観光客誘致および交流人口を増やすための今金町の玄関口となる美利河地区における総合的な観光振興ツールを考える。

【プロジェクト No. 6】スキー場菜の花一面プロジェクト

【プロジェクト No. 7】外国人観光客と地元多世代が集うコミュニティセンター

この提案を広く町民に紹介するため、町内で2月に開催された「人づくりフォーラム」において発表を行った。中学生の提案を可能な限り、実現させてあげようという機運によって、町内の関係団体等が参画する「ピリカプロジェクト実行委員会（事務局：まちづくり推進課）」が組織され、実現に向けて継続的に協議していくこととなった。

一方、この取り組みは、学生にとっての効果も確認することができた。一定程度の大学での学びが活用されていることを調査結果からも、確認することができた。また、社会人基礎力の能力要素についても、事前に比して事後は、12のすべての要素で増加していることを確認した。このような結果から、能動的学修（アクティブ・ラーニング）を展開する上で効果を上げるための二つの視点を確認した。

一つは、本プロジェクトが、学生がファシリテーターとなり、中学生と共に協議し、提案する活動であったことである。アメリカ国立訓練研究所 (National Training Laboratories) が発表した研究結果に、異なる学習方法による学習定着率を表す「ラーニングピラミッド (Learning Pyramid)」がある。「講義・聞く (Lecture)」は 5%、「資料や書籍を読むこと (Reading)」は 10%、「視聴覚・見る (Audiovisual)」が 20%、「実演によるデモンストレーションを見る (Demonstration)」が 30%、「グループディスカッション (Discussion Group)」が 50%、「実践による経験・体験・練習 (Practice Doing)」が 75%、「他者に教えること (Teaching Others)」が 90%である。

プロジェクトの活動の中心となる学習方法は、まさにラーニングピラミッドの「グループディスカッション (50%)」、「実践による経験・体験・練習 (75%)」、「他者に教えること (90%)」の 3 つが中心となっている。とりわけ、中学生との共同活動であったことは、中学生の考えやアイデアをカタチにするファシリテーターとしての役割が求められ、日ごろの大学の授業とは違い、他者 (中学生) に教えるという場面が随所に見ることができた。このように、「グループディスカッション」、「実践による経験・体験・練習」、「他者に教えること」といった学習方法を取り入れることが重要であることを確認した。とりわけ、中学生との活動は、他者に教える学習方法が中心であり、大学で学んだこと (インプット) を、アウトプットする場面を随所に確認することができた。こうしたアウトプットの機会を学習過程の中に、位置づけることは、学内での学びへの意欲喚起にもつながることになる。

二つは、「現場でのリアルな学び」によるコミュニケーション能力の育成につながることである。美利河地区という特定地域をフィールドとして、そこに住む町民の方々から現状や課題を把握し、中学生のアイデアを形にする活動は、多様な世代や多様な価値観を持つ人との関係性を築き、合意形成していく過程に他ならない。学生に必要なこうした能力は、学内の授業で行われる同世代のグループワーク等の協議において、身につけることは至難であると言わざるを得ない。多様な世代や多様な価値観に触れることのできる現場でのリアルな学習機会を提供できることは、地域連携によるプロジェクトの大きな利点であることを確認した。

2 今年度の取組

昨年度、中学生の 7 つの提案を実現するために、町内の関係団体等が参画する「ピリカプロジェクト実行委員会 (事務局: まちづくり推進課)」が組織された。今年度は、提案内容 (プロジェクト) を実現するための課題や障壁として懸念される点などについて、各方面からの情報収集やヒアリング調査を行い、実行委員会のアクションプラン作成のための情報・資料の提供に寄与しようというものである。

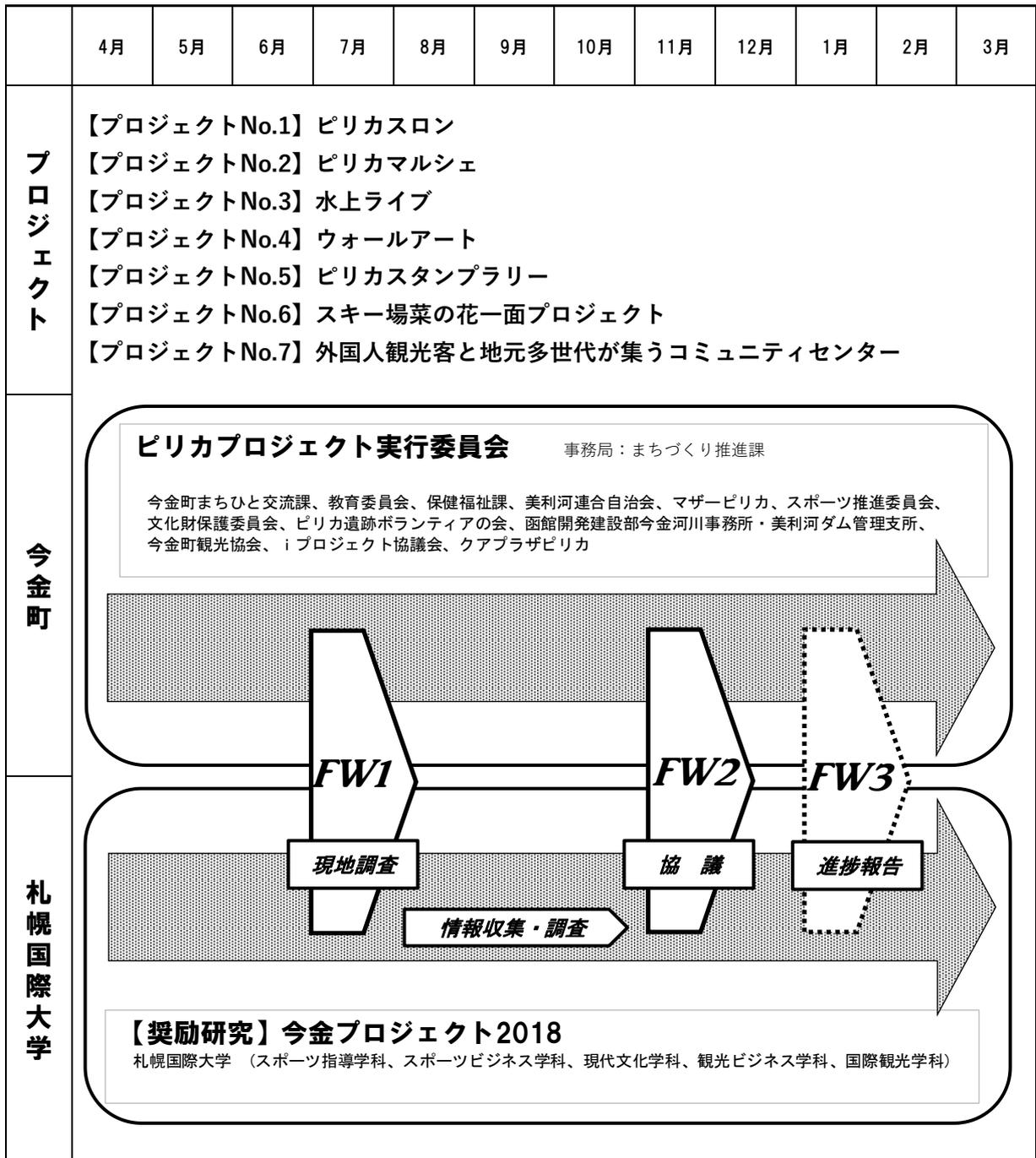
こうした一連の活動を通して、プロジェクト学習による学生の教育効果や効果的な推進のための資料を得ることを目的として、実施した。

年間の活動イメージフローは、(図-1) の通りである。【FW1】(7月21日～22日)では、今金町を訪問するのが初めてである学生も多いことから、美利河地区におけるプロジェクト実施地域の現状を視察し把握することを目的に行った。また、「スキー場菜の花一面プロジェクト」の実施場所となるスキー場を会場に開催される「ピリカ祭」の様子を見学すると共に、来訪者へのプロジェクトに関する期待度を調査し、今後のプロジェクト推進アクションプラン作成の参考情報の収集を行った。

【FW1】と【FW2】の間に実施する【情報収集・調査】は、学科ごとに担当プロジェクトを分担し、道内各地の参考事例を収集するとともにヒアリング調査等によりまとめ、プレゼンの資料作りに取り組んだ。【FW2】(11月17日～18日)では、道内各地で行った情報収集及び調査等の結果について、「ピリカプロジェクト実行委員会」において、発表・報告を行うと共に、実行委員会メンバーとの意見交換及び協議を行った。

【FW3】(2月12日)では、今年度の実行委員会における検討状況についての報告を受け、次年度以降へのアクションプランの策定に向けて、実行委員メンバーとの意見交換を行った。

今金プロジェクト2018 活動イメージフロー



3 今年度の成果と課題

これまでの地域課題解決をテーマとしたプロジェクト学習の場合、主に「①地域の選定→②現地調査→③地域課題の抽出→④解決方策の検討→⑤発表・報告」という一連の学習プロセスにより展開されるのが一般的である。最終的に提案（発表・報告）されたものが、実現に向けて次のステップへ発展するという事は、あまり見られない。そこには、学生の教育として行われることから、長期的スパンでプロジェクトを進めることが難しく、解決方策を「提案すること」が目的化してしまっているという現状がある。しかし、今金町をフィールドとする本取組は、本学と今金町の地域連携事業に関する協定によって行われていることから、継続した取り組みが可能となっている。そこで、前年度に今金町の中学生とともに地域課題の解決方策を提案した7つのプロジェクトについて、実現するための次のステップへと進める取組を、今年度のプロジェクト学習として推進することとした。

今年度の取り組みが昨年と大きく異なるのは、【FW1】と【FW2】の間に実施する道内各地の参考事例を収集しヒアリング調査を行い、まとめ、プレゼン資料を作成するということである。これまでは、与えられたフィールドにおける地域課題を抽出し、解決するために地域に関わる関係データの収集や現地関係者からヒアリング等を行うという一連のフローで取り組みを進めてきた。言わば、すべてが当該フィールドにおける活動に終始してきたことになる。

今回の取り組みは、フィールドの課題を解決するために、全国（道内）各地で取り組まれている実践の中から、事例として参考となるものを広く収集し、直接ヒアリングを行うなど、より広範なエリアへ学生の視野を広げ、活動を発展させたことにある。このことによって学生は、「情報収集→実践事例の選定→フィールドワーク（ヒアリング調査）実施計画→アポイントメント→フィールドワークの実施→調査内容の整理・分析→調査内容のまとめ→発表・報告」という一連のプロセスを自らの力でデザインしていくことが必要となる。とかく、地域課題解決をテーマとしたプロジェクト学習の場合、該当地域における活動が中心となるが、視点を外に移し他の優れた実践事例から地域課題の解決を考えるという、発展的な学習展開における成果と課題を、「【プロジェクト No.6】スキー場菜の花一面プロジェクト」の学生の活動から考えたい。

スポーツビジネス学科の学生が担当したのは、ピリカスキー場を一面菜の花にするというプロジェクトである。学生は、インターネットにより、道内の菜の花畑で有名な自治体の情報を収集することから始めた。さらに、詳細の情報を得るために、電話による情報収集及びヒアリング調査の可否とアポイントメントを行った。こうした電話による交渉は、大部分の学生がはじめてであり、学生同士でリハーサルしているのが印象的であった。最終的に、ヒアリング候補地として学生が選定したのが、次の2か所である。

一つは、「JA たきかわ直売所 菜の花館」において、菜の花関連商品についての調査を行った。なたね油の製造過程や生産に必要な機材やコストなど、詳細な聞き取りを行うと共に、関連商品を購入した。この購入した商品については、後日大学において、試食の様子を動画にまとめ発表資料として活用した。

二つは、「空知農業改良普及センター」において、菜の花栽培の留意点等についてヒアリング調査を行った。なお、アポイントメントの際に、当日聞きたい内容について求められたため、急遽学生が作成しメールで送った主な質問事項が次のとおりである。

【空知農業改良普及センターへの主な質問内容】

- ①連作障害を避けるために毎年畑を変えなければならないのか。
毎年変えずに栽培することは可能か。
- ②地面に直播することとポットなどに播種して発芽してから定植するのでは、どちらがよいのか。
- ③無農薬栽培というのは可能なのか。また、農薬を使用する場合の費用、散布するタイミングはいつか。
- ④滝川で菜の花の蜂蜜を作っているが、菜の花を活用した商品としてどのようなものが作れるのか。
- ⑤スキー場のような斜面でも栽培は可能なのか。また、斜面で栽培する際に問題となるのはどのようなことか。
- ⑥観光振興のために、菜の花畑を活用する場合の留意点は何か。
- ⑦植えた後の管理として、どれくらいの人数でどの程度の期間・時期で作業が必要なのか。
- ⑧菜の花以外に、スキー場のような傾斜地に適した花等の作物はないか。
- ⑨菜の花栽培には、どの程度の費用がかかるのか。

こうしたフィールドワークによって得た情報を、整理・分析し、11月に今金町で開催された「ピリカプロジェクト実行委員会」において、発表・報告を行うと共に、実行委員会メンバーとの意見交換及び協議を行った。とりわけ、学生とはレベルの違う知識・経験を有する実行委員会メンバーと対等もしくはそれ以上に発言していたことが印象的であった。これは、学生自らが先進事例等を分析し、フィールドワークによって得た情報であることから、発言の自信と説得力を生んだのではないかと考える。

他のプロジェクトを担当した学科学生についても、同様に活発な意見交換となり、学生の発表・報告は、実行委員のアクションプランの作成について有益な情報提供に繋がったと考える。

地域の有する課題を解決するために、当該地域から視点を移し、他の優れた実践事例から有用な情報を収集・分析・提供する活動は、学生が主体的に、「情報収集→実践事例の選定→フィールドワーク（ヒアリング調査）実施計画→アポイントメント→フィールドワークの実施→調査内容の整理・分析→調査内容のまとめ→発表・報告」という一連のプロセスを自らの力でデザインしていくことが必要で、まさに能動的な学習の展開である。

一方で、学生が主体となって取り組む上で課題となるのが、「準備学習」の位置づけである。今回の学生の活動を見ると、電話のかけ方、アポイントの取り方、訪問時のマナー、インタビューの準備と方法等について、事前指導することの必要性を感じる。本事業は、授業に位置づくものではないため、事前の準備学習に十分に時間をかけることはできなかった。学生は、戸惑うことも多々あったが、実践から学ぶという点においては、学生にとって貴重な経験となったことは間違いない。しかし、講義と実技によって事前に準備学習することで、より円滑に活動することができる。今後、地域における課題解決型プロジェクト学習を推進していくためには、その前提としてカリキュラムの中で、「準備学習」を位置づけることが必要ではないかと考える。

最後に、フィールドワークを伴うプロジェクト型学習を実施する場合、課題となるのが連携先となり得る地域資源の開拓と言われている。その点においては、平成24年に本学と今金町の地域連携

事業に関する協定締結以後、継続して取り組みを行っていることから、担当者間の意思疎通も十分に図られ円滑な取り組みを進めることができている。こうした長期間にわたり継続した関係があることで今年度のような取り組みも可能となった。この場を借りて、今金町まちづくり推進課をはじめ関係各位に心より感謝するものである。

IV 資料

1 美利河地区の地域振興に関する期待度調査結果

2 学生ふりかえりレポート

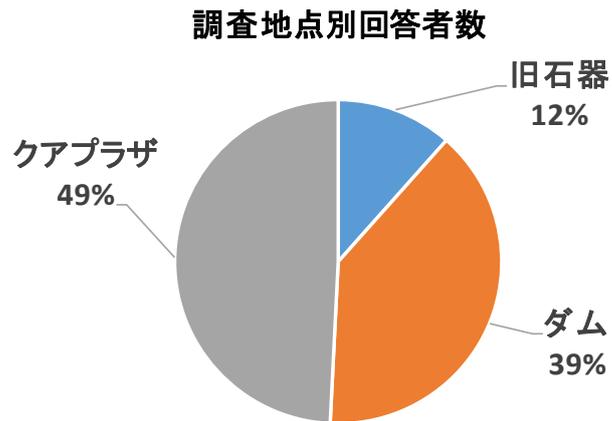
1 美利河地区の地域振興に関する期待度調査結果

【調査期日】 2018年7月21日(日)

【調査方法】 ピリカまつり会場(3地点)において、来場者にヒアリングボードを提示し、最も期待する取組について1位から3位までをヒアリングする。

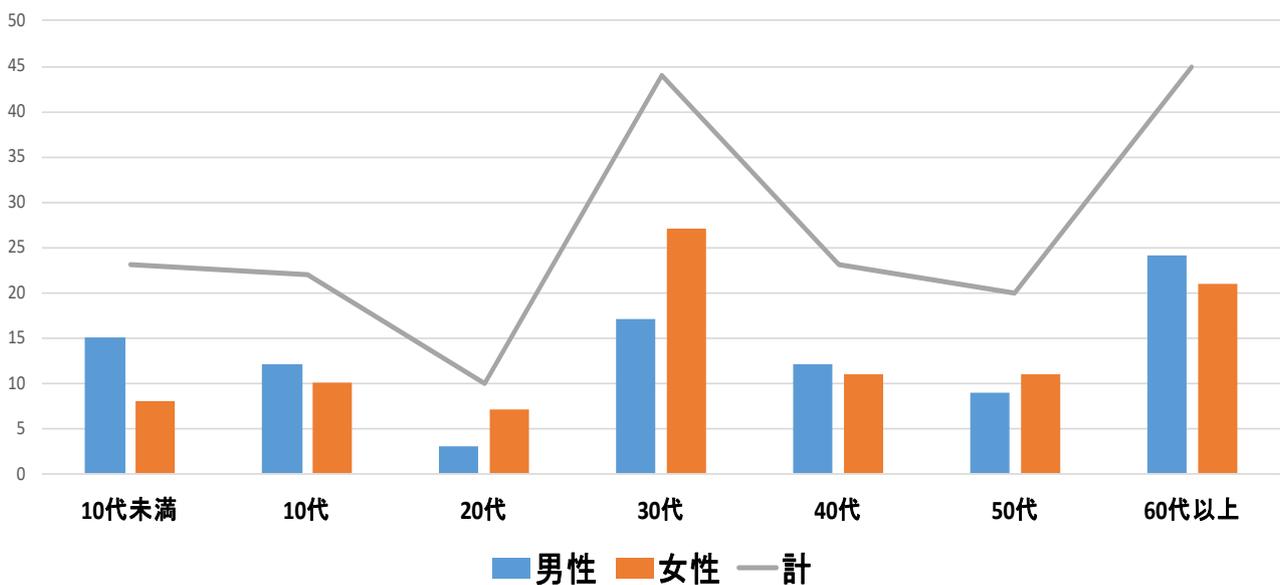
1 調査地点ごとの有効調査数 (n)

旧石器	22
ダム	75
クアプラザ	94
総数	191



2 性別・年齢別

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	15	12	3	17	12	9	24	92
女性	8	10	7	27	11	11	21	95
計	23	22	10	44	23	20	45	187



3 調査地点ごとの年齢階層

<旧石器>

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	1	0	2	0	2	6	11
女性	0	2	1	4	1	0	3	11
計	0	3	1	6	1	2	9	22

<ダム>

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	15	6	1	4	10	2	0	38
女性	8	3	0	13	6	2	1	33
計	23	9	1	17	16	4	1	71

<クアプラザ>

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	0	5	2	11	2	5	18	43
女性	0	5	6	10	4	9	17	51
計	0	10	8	21	6	14	35	94

4 居住地属性

居住地属性

町内	116	189
町外	73	

<町外>

桧山	今金	せたな	乙部	江差	厚沢部	上ノ国	
		20	0	2	0	0	
REASAS		297		26	113	50	
渡島	八雲	長万部	森	七飯	北斗	函館	
	7	11	2	0	0	4	
REASAS	60	46	41	14	29	190	
後志	小樽						
	0						
REASAS	20						
胆振	室蘭	苫小牧	登別	伊達			
	1	0	0	0			
REASAS	60	14	43	14			
その他	札幌市	石狩市	北広島市	深川市	帯広市	遠軽町	美深
	0	0	0	0	0	0	0
REASAS	651	26	29	31	48	41	10

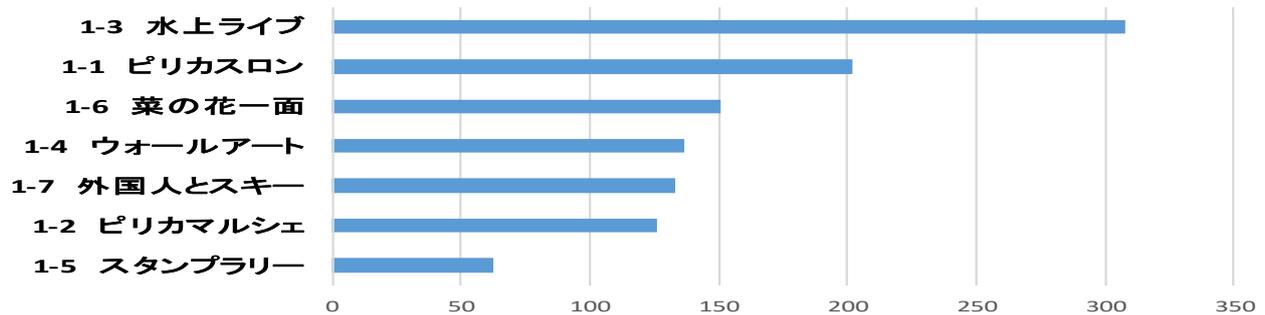
※項目「RESAS」の数値は、昨年の8月に今金町を訪れた人数値。

RESAS（地域経済分析システム：Regional Economy Society Analyzing System）

5 期待度ランキング

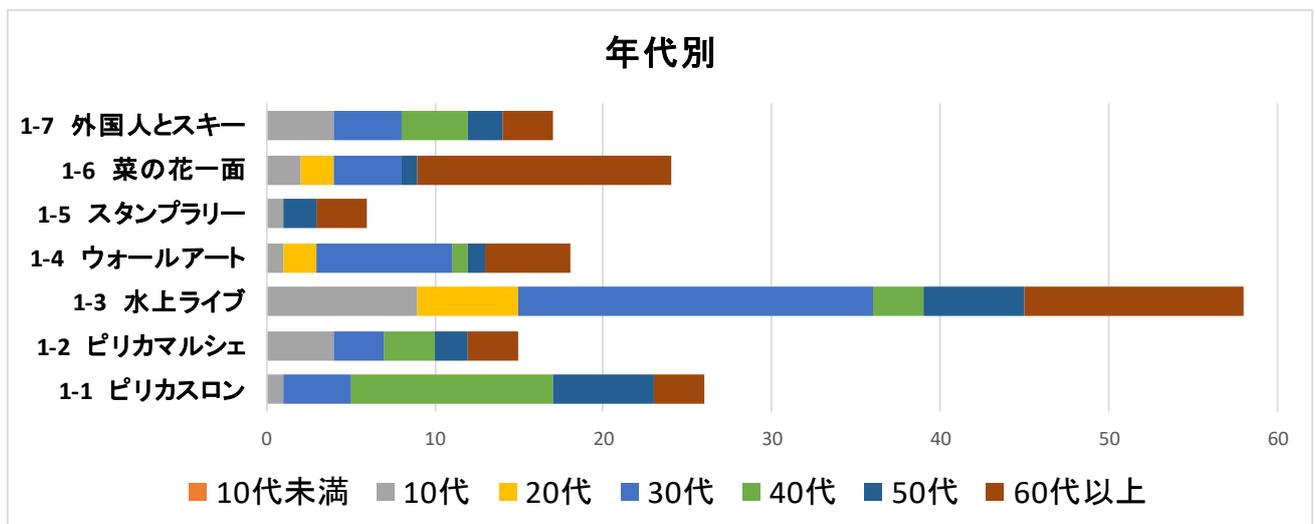
<総数>	第1位の数	第2位の数	第3位の数	<総数>	累積数	換算点
1-1 ピリカスロン	30	39	34	1-1 ピリカスロン	103	202
1-2 ピリカマルシェ	18	26	20	1-2 ピリカマルシェ	64	126
1-3 水上ライブ	70	35	28	1-3 水上ライブ	133	308
1-4 ウォールアート	20	22	33	1-4 ウォールアート	75	137
1-5 スタンプラリー	9	8	20	1-5 スタンプラリー	37	63
1-6 菜の花一面	24	25	29	1-6 菜の花一面	78	151
1-7 外国人とスキー	20	27	19	1-7 外国人とスキー	66	133

順位を点数によって換算・集計



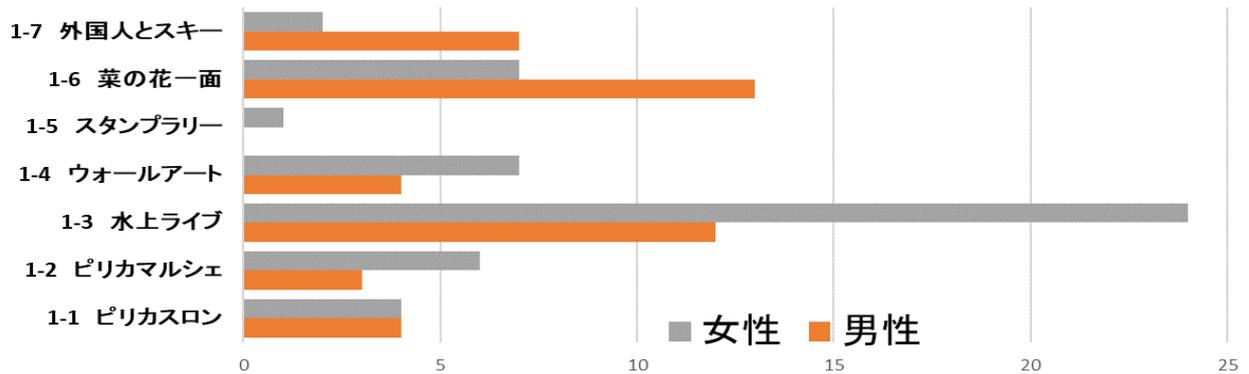
<年代別累積数>	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
1-1 ピリカスロン	0	1	0	4	12	6	3	26
1-2 ピリカマルシェ	0	4	0	3	3	2	3	15
1-3 水上ライブ	0	9	6	21	3	6	13	58
1-4 ウォールアート	0	1	2	8	1	1	5	18
1-5 スタンプラリー	0	1	0	0	0	2	3	6
1-6 菜の花一面	0	2	2	4	0	1	15	24
1-7 外国人とスキー	0	4	0	4	4	2	3	17

年代別



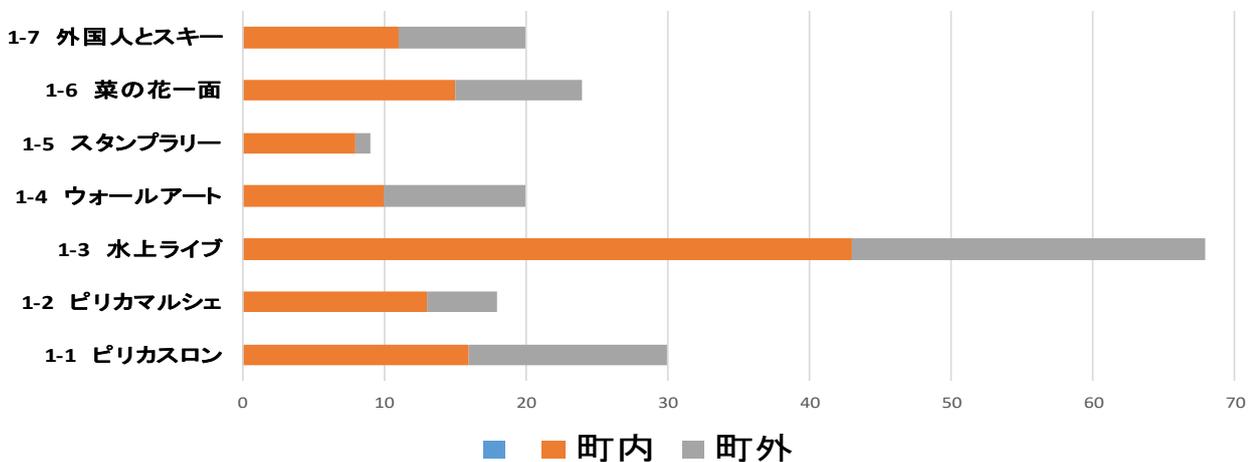
<性別累積数>	男性	女性
1-1 ピリカスロン	4	4
1-2 ピリカマルシェ	3	6
1-3 水上ライブ	12	24
1-4 ウォールアート	4	7
1-5 スタンプラリー	0	1
1-6 菜の花一面	13	7
1-7 外国人とスキー	7	2

男女別



<居住地別累積数>	町内	町外
1-1 ピリカスロン	16	14
1-2 ピリカマルシェ	13	5
1-3 水上ライブ	43	25
1-4 ウォールアート	10	10
1-5 スタンプラリー	8	1
1-6 菜の花一面	15	9
1-7 外国人とスキー	11	9

居住地別



札幌国際大学 今金プロジェクト2018
美利河地区の地域振興に関する期待度調査

ぜひ皆さんの
ご意見を！

1-1:ピリカダムを活用した「ピリカスロン」
マラソン・カヌー・水泳のトライアスロン



1-5:ピリカの歴史を学ぶ「スタンプラリー」



1-2:ピリカダムを活用した「ピリカマルシェ」



1-6:ピリカスキー場
「菜の花一面プロジェクト」



1-3:ピリカダムを活用した「水上ライブ」



1-7:クアプラザピリカを「外国人観光客向け和風ス
キー場と地元多世代が集うコミュニティセンター」に



1-4:ピリカダム壁面を利用した
「ウォールアート」



ピーリちゃんとピーカくん



いまルン

★最も期待する取り組みにシールを貼ってください

1位・・・金のシール

2位・・・銀のシール

3位・・・緑のシール

札幌国際大学今金プロジェクト 2018 「美利河地区の地域振興に関する期待度調査」 2018.7.70-21 実施

この欄は調査員が自分で判断して記入する。	調査員属性	学科	氏名	通し番号
	調査対象者	年齢： <input type="checkbox"/> 10代 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代以上		
		性別： <input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性		

調査員が質問して得られた回答を記入する。	どこから来ましたか？ <input type="checkbox"/> 町内 <input type="checkbox"/> 町外 → (市町村名)															
	<table border="1"> <tr> <td>7つの地域振興プランについて、</td> <td>ベスト3の順位を記入</td> </tr> <tr> <td>1-1 ピリカダムを活用した「ピリカスロン」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-2 ピリカダムを活用した「ピリカマルシェ」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-3 ピリカダムを活用した「水上ライブ」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-4 ピリカダム壁面を利用した「ウォールアート」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-5 ピリカの歴史を学ぶ「スタンプラリー」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-6 ピリカスキー場「菜の花一面プロジェクト」</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-7 クアプラザピリカを「外国人観光客向け和風スキー場と地元多世代が集うコミュニティーセンター」に</td> <td></td> </tr> </table>	7つの地域振興プランについて、	ベスト3の順位を記入	1-1 ピリカダムを活用した「ピリカスロン」		1-2 ピリカダムを活用した「ピリカマルシェ」		1-3 ピリカダムを活用した「水上ライブ」		1-4 ピリカダム壁面を利用した「ウォールアート」		1-5 ピリカの歴史を学ぶ「スタンプラリー」		1-6 ピリカスキー場「菜の花一面プロジェクト」		1-7 クアプラザピリカを「外国人観光客向け和風スキー場と地元多世代が集うコミュニティーセンター」に
7つの地域振興プランについて、	ベスト3の順位を記入															
1-1 ピリカダムを活用した「ピリカスロン」																
1-2 ピリカダムを活用した「ピリカマルシェ」																
1-3 ピリカダムを活用した「水上ライブ」																
1-4 ピリカダム壁面を利用した「ウォールアート」																
1-5 ピリカの歴史を学ぶ「スタンプラリー」																
1-6 ピリカスキー場「菜の花一面プロジェクト」																
1-7 クアプラザピリカを「外国人観光客向け和風スキー場と地元多世代が集うコミュニティーセンター」に																
質問の答えを記入する。	1位を選んだ理由はなんですか？															



クアプラザ会場



ピリカダム会場

2 学生ふりかえりレポート

(1) 第1回FW(7月21-22日)

【スポーツビジネス学科 3年 男】

今金町と携わることは3年目となり、参加学生も後輩が多くなった。過去の活動を振り返り、先輩方の行動に助けられた側面や学んだことを整理し、活動に臨んだ。具体的には、“オンとオフの切り替え”と“場を盛り立てる振る舞い”の2つである。“オンとオフの切り替え”では、昨年、一昨年の先輩方は、活動中、熱心にメモを取ることや、質問をするなど、意欲的に行動している姿が見受けられた。その一方で、食事時や初日のプログラム終了後の交流時間などでは、明るく社交的に振舞う姿が印象的であり、その姿に助けられることが多々あった。今年の活動では、我々がその立場となったが、後輩に気を遣わせてしまう場面が多くなってしまったと感じている。後輩が先輩に気を遣うのは当たり前、という考え方が一般的だともいえるが、私はそれが正しいとは思っておらず、先輩が後輩に気を遣うことも必要不可欠だと考えている。“場を盛り立てる振る舞い”は、“オンとオフの切り替え”とやや似ているが、組織で活動する際には、場を盛り上げるムードメーカーの有無が活動に大きな影響を与える。昨年の活動では、先輩の一人がムードメーカーとして終始盛り上げてくださっていたが、今回我々がその役割を務めることが出来ていなかった。私は普段の生活から、ムードメーカーとして過ごしておらず、今金プロジェクトでは慣れないことをする勇気が必要だと考えていたが、結果的に中途半端な振る舞いで終わってしまった。今回の活動では、スポーツビジネス学科から1年生が2名参加していた。聞いたところ、その2名は普段からコミュニケーションを取っておらず、相当な緊張を背負って参加していただろう。私が逆の立場となった際、どのようなアプローチが効果的かを考え、コミュニケーションを取ったと自負している。特に、2日目の活動では、宮澤君と指導学科の学生とともに活動したが、宮澤君の動きが良く、活動がスムーズに進んだ。全体を通して感じたのは、学生同士のコミュニケーションについてである。コミュニケーションについて苦手意識を抱えている学生がいると感じた。初参加による緊張も少なからずあると察するが、今金町の方や先生方への挨拶や返事などは、必ず行うようにして欲しい、というのが素直な感想である。昨年の活動を踏まえ、考案したことを具現化・具体化していく作業が続いていくが、成功を収めるためには私も含め参加学生がより責任感を持ち、活動に参加をする必要がある。他人任せではなく、また、指示されたことに加え自発的な行動も必要になる。私もプロジェクトの一員、また札幌国際大学の代表として、自覚をもって活動していきたい。

【スポーツビジネス学科 3年 男】

今年で3回目となる今金プロジェクトは、新たに一年生を加えて自分たちも上級生として引っ張る立場での参加となった。第一回のフィールドワークでは、昨年のプロジェクトで7つの提案が出たが、町民の方々ほどの提案に興味があるのかを調査するためにフィールドワークを行った。一日目は、新たに入ったメンバーも多かったのを改めて美利河地区のフィールドワークを行った。自分自身は二回目であったため昨年と違いがないかなどの確認をしながら話を聞くことができた。二日目は、今回の目的である今金町民の方・町外の方に意識調査を行った。ちょうどその日に美利河地区で「ピリカ祭り」が行われていたこともあり、クアプラザピリカ・美利河ダム・旧石器文化館の三か所に分かれて意識調査を行った。自分は、観光チームの二年生とともにクアプラザピリカで調査をした。イベントの本会場でもあ

り、多くのお客さんがいらっしやっていた。祭りは10時からだったが、9時から調査を行い会場の準備をしている方、早めに来ていたお客さんなどイベントが始まる前に多くの方に調査をすることができた。調査をしている中で感じたのは、自分の中では菜の花畑の提案が多く出るのではないかと思っていたが、調査をしていると美利河ダムでの水上ライブの提案が多く、非常に驚いた。あと調査をしている中で町民の方々が今金プロジェクトのことをあまり知らないのかなと感じた。自分たちがアンケートを聞きに行っても知っているよなどという言葉は聞こえてこなかった。町外の方はまだしも、町民の方が今金プロジェクトのことを知らないというのはまだまだ活動が知られていないのかなと感じた。学校内でも知っている人がいないので、もっとみんなに知ってもらえるような活動をしていかなければならないのかなと思った。今回第1回のフィールドワークを行って、一年生が新たに加わったことで教えることも多くなったと感じる。今までは僕たちがとっていた動画や写真なども一年生にやってもらうために教えたりする機会が多くなった。また今回は今までと違って下級生が多い。今までの2回は上級生しかいなかったのを気を使ってしまう機会が多かったが、今回は逆の立場なので自分から声をかけて行くように心がけている。自分たちが下級生だったときは先輩方が声をかけてきてくれてやりやすい環境を作ってくださっていたので、そのまねをしようと心掛けた。これから11月に向けて空知管内でのフィールドワークも予定されている。一年生の指導もしっかりと行い、ほかのチームの二年生、三年生ともコミュニケーションを取りながらみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思う。また、自分自身もリーダーとしてどんどん率先して行動できるように頑張っていきたい。先生から言われる前に行動することを心がけていきたい。

【スポーツビジネス学科 3年 男】

2018年度の第1回目の今金プロジェクトが終了した。昨年度もこのプロジェクトに参加させていただいているので昨年度のプロジェクトと合わせると5回目の参加となる。5回を通して地域の範囲は限られるが今金町という町がどういう町でどういう良さがあるのかなど徐々に知ることが出来てきた。昨年度の初めの頃は、「人が全然なくて何もない町」などと偏見を持っていた自分がいたが今は全くそう思わなくなった。決して、人口が多い町とは言えないが非常に魅力があり、とても住みやすい町だと思うようになった。というのも、こう思うようになったきっかけは、5回のプロジェクトを行い、今金町美利河地区の魅力を知ることができたからだ。今金町に来たことがない人はプロジェクト参加前の自分と同様、今金町美利河地区の魅力を知らない方がほとんど。今金町という町自体を知らないという人も多いのではないだろうか。そのような人に、どう今金町・今金町美利河地区をうまくアピールしていくかが今後の課題だとは私は思った。私は旧石器文化館で意識調査を行っていたがほとんどの方が今金町民だった。聞いた数の母数が少なかったからというものもあるかもしれないがもう少し市外からの来館者を期待していた。ボランティアで来ていた60代くらいの男性の方とお話する機会があったのでお話をしていたのだが、その方曰く、「今金町民に今金町の美利河地区をアピールするのはいいけど、どうせなら市外の方、いや、北海道、欲を言えば日本人たちに今金町美利河地区をアピールできれば最高なんだよね。」と言っていた。町を活性化させるには当然のことながら市外からの来訪者が必要不可欠であり、ただ来るだけではなく、その町を知ってもらえることも重要である。今回のプロジェクトはこのようなことも含め非常に重要な活動だったのではないかと私は思う。個人的な願望になってしまうが、北海道＝〇〇の夜景が有名、北海道＝〇〇の食べ物が有名、のように北海道＝今金町美利河地区のダムでの水上ライブが有名、スキー場一面に咲いた菜の花畑、ピリカスロンが有名などといった北

海道＝今金町の〇〇を成し遂げたい気持ちがある。なので今回以降も全力でプロジェクトに参加し、可能不可能に関わらず今金町美利河地区の地域発展のサポートに尽力したいと思う。

今回は既存メンバー6人に加え新たに9人が加わり、15名での活動となるが、みんな仲が良く、楽しくプロジェクトをおこなっていけると思う。正直、佐久間先生からビジネス1年の山中と宮澤はそこまで前に出る子じゃないからと言われたときは大丈夫かなと思っていたが、いざプロジェクトを開始すると二人とも積極的に動画撮影などを行ってくれていたのととても安心した。今後の活動含め、うまく私達3年の活動を引き継いでこれからも頑張っていってもらいたい。次の活動は、こちらでのFWなので美利河地区でのプロジェクトを円滑に進めることができるようにこちらでうまく情報収集を行って役立てたいと思う。

【スポーツビジネス学科 1年 男】

私は今回の今金プロジェクトの話聞き、最初に感じたのは「今金町ってどこ？」だった。佐久間先生の勧めでこのプロジェクトに参加させてもらえることになったが、このような活動が初めてであり、しかも自分が全く知らない町での1泊2日の活動でもあったので、しっかり仕事をこなせるか不安な気持ちで当日を迎えることになった。1日目の現地調査では色々なことで驚かされた。旧石器文化館やダム、ピリカカイギウなどの、歴史的価値があるもの、有名になりそうなものが沢山あったからだ。こんなにも有名になりそうなものがあるのにも関わらず、今金町の知名度はお世辞にも高いとは言えない。私は「もっと宣伝を工夫したりすれば今金町をもっと有名にできそうだな」と感じた。例えば今金町でしかできないような事、或いは幅広い世代で参加してもらえるような事をして人を集める。去年先輩方が提案していたピリカの歴史を学ぶスタンプラリー、ピリカのダムを利用したピリカスロンなどはとても良い案だと感じた。他にもダム周辺で行っていたピリカふれあいマラソン大会と、クアプラザピリカで作っていたイチゴお使い、最近女性に人気の高いスイーツマラソンなどのイベントを開催することで北海道全体に今金町をアピール出来ると思った。これらの案は例えであり、他にも今金町をアピールする方法はたくさんあると思う。11月のフィールドワークやこれからのプロジェクトで、それらの案を具体的に提案し企画を成功出来るようにしていきたいと思った。2日目のヒアリング調査では、予想よりも多くの人に話をきくことができた。私はダムで調査を行ったが、前日は「ダムにはあまり人が集まりそうに無いな」と思っていた。しかし、当日はピリカふれあいマラソンに参加する人たちが集まっており、約2時間の間で78人にアンケートをとることができた。」その結果水上ライブが1位、ピリカスロンが2位という結果だった。この2つが多く選ばれた理由としては、人を集めることができそう、面白そう、流行りのインスタ映えしそう、などの理由が多かった。現地調査により、これらを実現することができれば、今金町を更に発展させることが出来ると強く感じる事ができた。2日間のフィールドワークで色々なことを知ることが出来た。今金町の事、地域復興をするにはどんなことをすればよいか、地域住民の方からの生の声など沢山のことを学ぶことが出来た。これらの学んだことを活かして、地域復興の為の案をこれから考えていきたいと思った。また今回、私は先輩方ほど仕事をこなすことが出来なかった。しかし次回以降のフィールドワークでは、より仕事を積極的に行い、今金町の地域復興、発展に少しでも尽力していくつもりだ。札幌国際大学で4年間の大学生活を終えた時に、今金町が現状より発展したと思えるようこれから頑張っていきたい。

【スポーツビジネス学科 1年 女】

今回の今金プロジェクトで、初めて今金町へと足を運んだ。1年生の参加は自分を含め2名しか居らず、

先輩方も話したことの無い人ばかりでどうすれば良いか不安であった。現地に行った時のインパクトを大事にしたいと、敢えて前調べはせずに行った。実際に行ってみて一番初めに静かな場所だと感じた。自然に囲まれていて静かな町である。そう感じた。実際に各スポットを回っていても自然豊かでダムがあり古くからの歴史を辿ることも出来る。見どころもあり面白い所だと思った。だが面白いと思った反面、多く課題があるとも思った。「ダムの活かし方」見どころは多くあるにも関わらずそれを活かしてきれていないのではないかと感じた。昨年プロジェクトから試験的に植えている菜の花も、ダムもピリカカイギユウも多く見どころがある。しかしどれも霞んでいる様に見えた。ダムを使ったウォールアートの案も出ていたが、やるべきだと思う。インスタ映えるような絵を描くのも面白いが、まずダムのスケールを活かし車で通り過ぎた時に目を引くようなものが必要であると思う。思わず立ち止まってみてしまうようなインパクトが重要ではないか。「ピリカの歴史」ピリカ旧石器文化会館、ピリカカイギユウ発見の地を訪れて思ったが、距離が離れすぎているのではと感じた。発見の地を移すことは出来ない。ピリカ旧石器文化会館からツアーとして発見の地まで行くように出来れば良いのではないだろうか。ピリカカイギユウ発見の地だけを見に行く人は中々居ないと思う。ピリカ地区の歴史を踏まえた上でスポットを回るようにすれば楽しめるのではないだろうか。文字盤の整理もだが実寸スケールでなくても色・形・大きさが分かる模型やイラストを置いておけば分かりやすいのではないだろうか。2日間を通して強く感じたのが、今金町の方の熱意である。今金町の良い所を十分に理解している方々であるからこそ、「今金町の良い所を他の人にも知ってもらいたい」という熱意が強いのだと思った。その熱意に触れ、初めはなぜ自分がと思っていたが、徐々に「こうすれば良いのではないか」と考えられるようになった。今金町の魅力をいかにして知らない人達にも伝えるか、知っている人にもっと好きになってもらうにはどうするか。解決するのは容易ではないことだと思う。だがプロジェクトの一員として自分なりに考えていきたい。

【スポーツ指導学科 3年 男】

今金町にいったこともない、初めて聞いたくらいの認知度で今回プロジェクトに参加させていただくことになりました。今回の自分自身のテーマとしてはチームのために今自分に何が出来るのかをその場に応じてその都度考えて行動、発言することを目標として行ってきました。学年も3年生と遅めのスタートですが上の学年だという自覚を持って率先して行動出来ればと思っていました。私は今回初めて今金プロジェクトに参加させていただきました。そこで多くのことを感じ、そして学ばせていただきました。ここまで先輩や同期が今金町をよりよい町にするために練り上げたプロジェクトを町民はどう感じているのかの調査がメインとなっていた。実際に行ってみての率直な感想は、自然が豊かでそれに伴い虫や野生の動物がたくさんいて非常に素晴らしい環境にあるなど感じました。地元の方々とふれあってみて地元愛が強いということも把握出来たので自分たちの今の力でどれだけ貢献できるかはわかりませんがベストを尽くして地域振興していきたいという考えに至りました。今回のフィールドワークでの気づきは、もっとコミュニケーションをとって切磋琢磨して取り組める環境が必要だと感じました。

【観光ビジネス学科 2年 男】

私は今金町の隣に位置しているせたな町出身ということもあり今金町とはとても馴染み深いものがある。そのため昨年からは観光学部の先生方にプロジェクトに参加してみないかと声はかけられていたものの、都合が合わず参加を断念するしかありませんでした。今年になり、再び先生方に声をかけていただいて、今度こそ参加をすることができ、今金町の力になれる日がやってきました。とてもうれしく思った。7月21、22日と1回目のフィールドワークが行われ、1日目はピリカ地区の地域研修を行い、

ピリカの歴史や各スポットのことについての知識を深めた。2日目はピリカで行われていた温泉まつりで、昨年プロジェクトチームが提案してくれた施策を用いて、ヒアリング調査を行った。ヒアリング調査を行ってみて、多くの方々の意見を聞くことができ、私たちのチームが担当したクアプラザピリカでは、圧倒的に水上ライブをやってほしいという意見が多くでた。やはりピリカのシンボルでもあるダムやスキー場を活用したいという声が多くでた結果となった。実行に向けてこれから他地域に訪れてさまざまなことを吸収して今金町のプラスにしていくので、地域の力になれるよう全力を尽くしたい。

【観光ビジネス学科 2年 女】

今回、私は初めて今金町のプロジェクトに参加しました。昨年、千葉先生の学びの技法で今金プロジェクトの交流チームのことは、お話を伺っていましたが、私自身、今金町には行ったことがなく、以前は名前もどこにあるのかも知らない町でした。しかし、今回を機会に今金町へ実際に足を運び、地元の方やプロジェクトに関わる方たちと接する中で、具体的な提案や意見を持って、より深く知ることができました。プロジェクトの中心であるクアプラザピリカ、ピリカ遺跡、ピリカダムを実際に見てまわり、プロジェクト内容に沿って今金町・ピリカ地区の歴史や現状、施設ごとの課題などの詳細を伺いました。個人的に驚いたのは、宿泊施設であるクアプラザピリカの目の前にスキー場があったことです。宿泊施設とスキー場との移動による時間やコストの弊害がほぼなく、施設利用を生かすという面ではとてもいい立地条件だと思いました。このスキー場の斜面に一面の菜の花が植えられたら、より良い集客力になるだろうと思いました。またこの菜の花一面プロジェクトによって、試験的に植えられた菜の花も見学しました。菜の花のシーズンである5~6月を過ぎていましたが、7月中旬でも花は咲いていることがわかりました。また蜂は多く見られたので、油以外にも、養蜂によるはちみつを商品化にするのはどうかという提案が交流チーム内で挙げられました。しかし、実際にスキー場に植えることになると人手不足、菜の花の活用方法としても菜の花を刈る動力や商品化までのコストなどが懸念されています。そこで菜の花で成功している先例として道内では滝川の菜の花祭り、道外では菜の花の養蜂で青森県横浜町、夏のスキー場利用で長野県の黒姫高原などがあり、今金町にあう形で参考にしたいと考えています。ピリカ祭りでのプロジェクトの期待度調査では、直に町民の方や周辺地域から訪れている方に接したので、今金町の雰囲気やイベント時の様子などがうかがえてとても良い刺激になりました。やはり高齢者が多数でしたが、家族連れや子供の姿も見られ、イベントでこのくらい人が集まるという目安にもなり、発見にもなりました。プロジェクトによるイベントでもっと今金町について知ってもらいたい、そのためには地元の方々と一体となって取り組むことが大切になってくるだろうと思いました。現地調査のまとめとして、圧倒的宣伝不足なのを感じました。旧石器や砂金採掘跡、ピリカカイギウの骨格標本のあつピリカ遺跡や日本一を持つピリカダムなど、観光資源はしっかりしているのに、発信力が欠けていると思います。また今回、菜の花の試験的な植栽やいちごの全自動栽培、クアプラザピリカの合宿・団体の新設など、今までの活動が生かされていました。ピリカ地区を見てまわりましたが、要所要所が少し遠く、わかりづらいため、歩いてまわるのは少し厳しいと感じています。発信する前にまず町民の方々を対象に、見せる形を整えていく必要があると思います。

【国際観光学科 2年 女】

今回、今金プロジェクトに初めて参加して、今まで全く知らなかった「今金町」という町のことについて、観光の分野から考えることとなりました。大学に入って観光を学び始めてから、ほぼ初めてとなる実地での活動で、しかも自治体の方たちとも深く関わっていく活動になるとのことだったので、自分

の中ではとても緊張していたのですが、一緒に参加した人たちの人柄にも恵まれて、一回目のプロジェクトを終えることができました。今金町のプロジェクトとして感じたことは、急な観光誘致は難しいのではないかということでした。これは今金町に限った話ではありませんが、北海道の観光はどうしても点々と観光地がある形となっていて、移動が困難です。メープル街道やロマンチック街道のように線となればまた別ですが、今金町の周辺で線として結べる施設は、あるかもしれませんが知名度的にも難しいと感じました。私たちは観光グループとして、スキー場の夏場の利用について検討していますが、採用になって着手して、観光地として誘致できる花畑になるまで短く見積もっても数年の月日を有すると思います。また、旧石器文化館に行ったときに感じたことなのですが、話を聞く限り歴史的にも価値があり、もっと厳重な管理がされてもいいような化石や標本があまりにも無造作に置かれているように感じました。もちろん、金銭的に許されるなら処置されていたのだと思います。かつて、砂金をとっていた場所として連れられた森も、遺跡を残すために手を加えられていないというよりは、余裕がなくて着手が間に合っていないように思えました。さすがにあの森の中に観光客を呼ぶことは困難だと思います。

なので、個人的な見解としては、遺跡について関心がある層にターゲットを絞り、誘致に力を入れるべきなのではないかと考えました。プロジェクトである以上避けては通れない話題ですが、何事にもお金がかかります。そして今金町にはお金が足りていません。たくさんのプロジェクト案が出せるほど、立地や環境に恵まれています。あれもこれもと手を出しては、お金がいくらあっても足りませんし、何もかも中途半端になる危険性があると思います。また、菜の花畑のように着手しても直ぐには実にならないプロジェクトや、成功しても試行錯誤が必ず必要になります。なぜ、遺跡について関心がある人たちにターゲットを絞るのかといいますと、人は興味や関心がある分野には今後の発展に期待をして投資を行う可能性があるからです。特に、遺跡や石器は保存管理が大切です。関心があれば保存管理にかかわる費用が膨大であることも、他の人より理解されやすいと思います。もちろん、どこから誘致するのか、そのようなコミュニティが存在するのか、その中で今金町はどういった立ち位置にいるのかなど、知りえない状態で考えたことを述べているので、実際にはもっと困難や壁が存在すると思いますが、そのことについても、これからプロジェクトを通して交流を重ねていけたらいいと思っています。

【国際観光学科 2年 男】

今回、今金プロジェクトに参加し、実際に今金町を訪れての感想などについて述べていきたい。まず、今金町を訪れての感想である。今回のプロジェクトで実際に今金町へ訪れる前までは、特になにもない町であるというイメージがあった。しかし、実際に訪れてみると、様々な観光対象があり、人を呼び込んで町を盛り上げることができる可能性もあり、魅力もある町であると印象が変わった。今回のプロジェクトで町や地域が盛り上がることに少しでも貢献できればと考える。次に、今金町を訪れての気づきについてである。今回、「ピリカまつり」でアンケート調査を行い、様々な地域の方の声を聞くことができた。そのなかで、スキー場の利用が隣町の長万部町やせたな町からもあり、望まれていた。そこから、スキー場の有効活用が重要になってくると考える。最後に、観光チームについてである。今回の現地調査によって、様々な課題や疑問が挙がった。また、養蜂も良いのではないかという案も出てきた。だが、菜の花畑などについての知識などが足りない。そのため、実際に菜の花の栽培や養蜂を行っている所へ行き、実際に話を聞いてくるなどのフィールドワークを行っていかうと考える。以上のことから、「今金プロジェクト」で今金町での地域振興に少しでも貢献できるように、菜の花畑の知識などを得るためにフィールドワークを行うなどしていききたいと考える。

【現代文化学科 2年 女】

今回、前回に続き二回目の今金プロジェクトに参加させて頂いて、前回の今金プロジェクトを再確認した。また、今金のPR（町民に向けて、観光客に向けて）をしようと思改めて感じた。今回調査した学生が企画したプロジェクトの期待度調査では、旧石器文化館の調査では水上ライブが1位だった。騒音などを気にするのではないかと感じていたが、調査させていただいた方々は「盛り上がったらいい。」「好きな歌手が来てくれたら観光客も…」という意見を頂けた。これから、追記調査を行ってもっと今金のPRに役立っていったらと思う。次回の調査も今金プロジェクトに参加しているメンバーや、協力してくださる方々と協力し、積極的にやっていきたい。

【現代文化学科 2年 女】

今回、私は初めて今金プロジェクトに参加した。今金町は、初めは自然が溢れる町と思っていたが、そう思っていたより自然豊かで施設が充実していると感じた。今金町の人々は温かく、居心地のよい空間であると思った。お祭りで多くの人々が足を運んでいたが、普段は、お祭りの時ほど活気に溢れてはいると感じられた。また、今金町はとても魅力がある町であるのに、PR不足を感じる点があり、非常に勿体無いと考えた。

(2) 第2回 FW(11月17-18日)

【スポーツビジネス学科 3年 男】

2018年度の今金プロジェクトでは、2回目の今金町訪問となった。今回のFWでは、実行委員会の皆さんとの意見交換会もあるということで、事前に滝川市にある「菜の花館」と岩見沢市にある「農業改良普及センター」の2か所にFWを行った。1年生は授業の関係で行くことができなかつたため、3年生4名でのFWとなった。まず、「菜の花館」では菜種油の搾取方法や、年間どれだけの油が作られているのかといったお話をお聞きした。そもそもどのようにナタネから油が作れているのかも知らなかつたので、とても貴重なお話を聞くことができ勉強になった。続いて、「農業改良普及センター」に行き、指導員である植村さんと千石さんにお話を聞いた。お二人からは、事前にお聞きした質問内容をもとに情報をいただいた。スキー場での栽培は可能なのか、費用の問題、ナタネ以外で適した植物・作物はあるのか、ナタネは連作が可能なのかなどといった質問をさせていただいた。ここでも専門知識が多く、理解するのに大変苦労したが、植村さん・千石さんのわかりやすい説明もあり、理解することができた。

2か所のFWで得た情報をもとに当日の発表に向け準備を進めた。スライドを作るのがかなり遅れてしまい、先生から何度も指導していただく場面が多かつた。今回も一番の反省は、準備が遅れてしまったことにあると考えている。今回は初めて1年生にも発表を手伝ってもらったが、FWに行っていないのでとにかくわかりやすく簡潔に話すことができるようにスライドを作った。当日はリハーサルを2回行ったが、どちらもうまくいかず事前の準備不足が露呈されてしまった。動画の確認を何度も行い完璧な状態で本番を迎えた。山中さんもリハーサルを行ったことで緊張することなく発表していたので良かつた。発表自体も動画を流したことで伝えたいことが伝わったのではないかなと感じた。改めて準備をすることの大切さを感じることができた。意見交換会では、発表では伝えきれなかつた情報も委員会の皆さんに伝え、僕たちの思いや、こういう景色・場所だったら行きたいという本音もたくさん出ていた。まず、

できつかできないか、実行できるかできないかではなく、実行していくためにはどういう進め方をしていくべきなのかを考え、ネガティブな意見を出すのではなくポジティブな意見を出すように自分の中で心掛けた。やっている中でできないことを考えるよりも実行するためにどうしたらいいか考えたほうが、いい意見もたくさん出ていたし活発な意見交換会になっていたなと感じた。大学生活のグループワークなどでも生かせる知識だと思うので、事項していきたいなと思いました。あまりこういう形式での意見交換会には参加したことがなかったので難しさも感じたが、学生同士ではなかなかでない意見もあったのでとても勉強になった。3年間でおよそ6回今金町に行ったが今回気づいたことがある。それは、意見交換会の中でも感じたが、実行委員会の方々が今金町の問題・課題を解決するために考えているという気持ちをすごく感じた。僕らが発表しているときも鋭いまなざしで聞いてくれていたし、意見交換会でも質問やFWの内容を細かく聞いてくれた。地域の課題解決に僕たち学生が関われるということは滅多にない経験だし、貴重な場を提供していただけているのだなと感じた。これは大学を卒業してからも生かせることだと思う。国際大の学生でも一握りの学生しか参加できないこのプロジェクトを3年間も続けられたことを改めて振り返ったときに参加できたことは自分の財産だなと感じた。1月、2月にFWがなければ僕たち3年生はほぼ参加することはないかもしれない。自分の中でも今回のプロジェクトが最後になるかもしれないと思いながら参加していた。一年生の時から先輩方にお世話になり、たくさんの先輩方と知り合うことができたし、ほかの学科の同級生、後輩とも仲良くなることができた。何より、1年生からずっと一緒にやってきた仲間ができたことが一番の宝だと思う。2年生からはリーダーを務めさせていただいたが、先生に迷惑をかけることも多かったが自分を成長させるいい機会だった。3年間今金プロジェクトに参加することができて本当によかったです。ありがとうございました。

【スポーツビジネス学科 3年 男】

2018年度の2回目の今金プロジェクトが終了した。昨年度のプロジェクトと合わせると今回で6回目の参加となり、今回は滝川・岩見沢での事前FWを参考にしたプロジェクト活動であった。地元岩見沢の菜の花や滝川の菜の花は有名だということは知っていたが、菜の花に関する知識はほとんど無かったので今回の活動を通して菜の花に関する多くの知識を習得でき、非常に満足した。ナタネ油を使用した商品の試食会も行うことができて嬉しかった。事前FWで分かったこととしては、事細かい話の内容を書くことはできないが結論として「斜面で菜の花栽培を行うのは少し問題があるのではないだろうか」ということだった。連作障害や、輪作障害、病害虫などの問題点が多く指摘された。今金プロジェクトの実行委員会の皆さんとの意見交換会の話し合いで出た結論も、やはりスキー場の斜面での菜の花栽培は厳しいのではないかということだった。事前FWでわかった問題に加え、作業する人員の確保、播種方法、経費など、様々な面において、問題があるということがわかった。例えば、播種する際はコンバインを使用するがコンバインが使用できる最大傾斜度は15度、それに対し、今金スキー場の平均傾斜度は20度、最傾斜度のところでは32度もあるので機械が入って作業するには厳しい、など、どちらかというとな否定的な意見の方が多かった。そこで、私達のグループでは斜面での菜の花栽培プロジェクトから少し離れ、「こんなこと、あんなことが出来れば四季を通じてピリカスキー場を利用してくれる観光客が来るか」という別視点で考えたテーマのもと話し合いを進めていった。話し合いで出た案としては、「山の麓や頂上に花畑を作って花見やジンギスカンを楽しんでもらう」、「麓や頂上で何かイベントを行う」、「頂上早上り大会を行う」など、菜の花栽培のプロジェクトよりかは実行できる可能性がある意見が多く出

た。率直な感想で、無理に菜の花栽培を行うよりかは、話し合いで出た案の方がプロジェクト的にもやりやすく、観光客増加に効果的であると感じた。スキー場の菜の花栽培にこだわるのではなく、別の様々な視点からスキー場を使ってくれるようなプロジェクトを進めていけば観光客増加につながるのではないかと思った。1つのプロジェクトを行おうとするとそれに伴って様々な問題点や課題点が出てくる。そこを上手く工夫して乗り越えながら成功させることが非常に重要なポイントなのではないかなと今回のプロジェクトで学ぶことができた。

【スポーツビジネス学科 3年 女】

事前FWについては、記録係として菜の花館と岩見沢農業改業普及センターへ行った。その中で、今回の活動の目的を念頭に置きながら、必要な情報を収集することができた。その情報等をもとに、その後の発表PP作成に活用できるようなものを記録係として1つにまとめ直した。これについては、周りの学生も見やすいと言って活用してくれていたため、嬉しさを感じると共に、達成感のようなものも感じる事ができた。発表PPについては土屋が作成したが、一緒に見て、より良くなる部分を伝える等、サポート役に徹した。プレゼンについても同様に、発表役では無かったため、サポート役として特に1年生の不安を取り除くことができるように、リハーサル段階からサポートした。プレゼンは撮影係の予定であったが、急遽、進行役に決定したため、臨機応変に対応することができたと考える。実行委員会メンバーとの意見交換については、大変有意義な時間となったと感じている。私たちとしての思いや考えを伝えつつ、町民の方々の思いや考えを聴くことで、視野を大きく広め、新たな考えを多く生み出すことができた。このように、社会人の方とグループワークを行う機会は少ないため、非常に貴重な経験となった。今回は、進行役や記録係では無かったが、そういった役もできるようになりたいと感じた。また、付箋を利用して考えを出していくという作業があったが、多くは案を出せなかったと感じたため、このような場面だけでなく、普段から素早く案や考えを出せることができるように、自分自身で考えるという訓練を行っていく。今金町についての新たな発見・気づきについては、これまで何度か今金町に訪問してきたが、今回、初めてのことが多くあった。最初に行った町民センターをはじめ、宿泊先のホテルや2日目の体験、昼食のダムカレーも初めてであった。これらのどれもがとても新鮮だった。正直なところ、今金町について初めてのことが多くは無いと考えていたが、今回新たな発見があったことで、今金町にはまだまだ知らないことが隠れていそうであると改めて興味を持つことができた。

私たちスポーツビジネス学科は、去年は調整チームとして活動しており、FWへ行き、話し合っ具体的案を考えるといったことは無かったため、今年のような活動ができたことに大変感謝している。これらの活動を今後にも必ず活かしていく。

【スポーツビジネス学科 3年 女】

前回のフィールドワークでは、主に今金町の観光地を巡る等、今金町を知るものであったのに対し、今回のフィールドワークでは知ったことと調査の結果を得て、それぞれの項目への調査を行い提案するフィールドワークとなった。私個人は事前フィールドワークに参加することは出来なかったが、パワーポイントの内容や先輩方から見せて頂いた調査結果を見て、事前に色々と考え現地に行くことが出来た。今回パワーポイントを用い発表した後に、発表を見てどの様に感じたか、又実現する為には何をすべきかを今金の方々と話すことが出来た。中でも印象に残ったのが、スキー場にどのようにして花を植えるか、冬だけでなく年中来てもらう為にはどのような工夫をするべきなのかという話である。グループの中にはスキー場にて活動されている方もいらっしゃり、貴重なお話を沢山聞かせて頂くことが出来た。スキー場

の傾斜度を考えた上でどこに植えられるのか植えられないのか、観光客の方が観に来たいと思える場所はどこなのかを、お話を聞いた上で改めて考える事となった。今金のスキー場の傾斜度が最大 32 度あり、コンバインで登れる傾斜度では無い。しかし頂上へ行くとなだらかだというお話をお伺いした上で、コース毎に作物を変え連作障害を避けること、連作が可能な植物がどれだけあるかを改めて考えることが出来た。またスキー場だけでなく、現在実際に今金町では町内会毎に様々な花を植えているという事が、話を聞いていく中で分かった。実際にスキー場に植えるとなった際に、職員の方だけでは厳しい。その為、小学生に授業の一環として手伝って貰うことや、スキー場に限定せずダムを一周するように花を植える、キャンプサイトに植える等様々な案が出た。話を聞いていく中で、非常に多くの課題が実現の為にはある事を改めて実感させられた。実現に向けてやるとなると多くの人・費用が掛かるため容易ではない。今金町をより多くの人に知ってもらう為には何をやるのが良いのか。今回ピリカ旧石器文化館での体験、ピリカダムカレーを実際に食べて、今金町には良い部分が沢山あるのにも思った。ピリカ旧石器文化館での体験もピリカダムカレーの美味しさも、知らないなんて勿体無いとも思い、改めて今金町の良さを沢山のの人に知ってもらいたいと強く思った。今金プロジェクト内での活動は勿論だが、自分から今金の良さを発信するには何をするか考えていきたいと思う。

【スポーツ指導学科 4年 男】

今回の今金プロジェクトでは去年の提案を実現に向けた FW・違憲交流会であった。それを終えて、私を感じたことは今金町にはまだまだ可能性がたくさんある町だということだ。今回、私たち健康チームはピリカスロン・ウォールアートについての情報を FW・調査を通して収集した。ピリカスロンではトライアスロン協会・連盟に聞き取り調査を行う予定だったができず、トライアスロンのことを自身たちが調べ、ピリカスロンを行う上でどんなことが考えられるかをまとめた。ウォールアートについてはディープリーフという会社に聞き取り調査と札幌ノルベサでのウォールアート探索の二つを行った。聞き取り調査では費用や期間の話を中心に行ったが、夢が大きい分、それにかかる費用や期間が大きいことがわかった。ノルベサでのウォールアートでも様々な形式で展示されていることがわかり、これなら実現が可能なのではないかと感じた。プレゼンではウォールアートの成果を大きくし、最終的にはピリカまつりと今回のピリカスロン・ウォールアートを絡み合わせ、町外参加者を増やすという見込みが考えられることにした。その後は実行委員の方と意見交流を行った。意見交流では実行委員の方からの情報をもらい、ウォールアートではダムについての情報が大きく関わってきた。ダム内部の壁には描けないが、貼り付けて取ることなら可能ということで、ノルベサのような形式のウォールアートとても実現に近いものであった。他にも紙に書いた物を貼り付けたり、大きな紙に塗り絵をして一枚の絵にしたりなど意見が膨らんでいた。実行委員ではピリカスロンに強い思いがあるのを話を聞いていて感じた。マラソン大会の計画の下地があることや、私たちが提案したカヌー→水泳→マラソンの水泳をバイク(自転車)にすることで参加できる人が増えることやそのピリカスロンが開催できそうな話があった。この話を詰めていけば本当に実現でき、新しいスポーツ「ピリカスロン」としてできるのが見えてきた。さらに執行委員の方からは今金町の想いも話してくれた。実行に向けては、まず今金町民が今金町の事を知ることが大事。そのためには子供のころから郷土愛を育てていくことが必要だと話してくれました。私はその話を聞いて共感した。私は清里町という今金町によく似た町に育った。そこでは中学の総合では「地域提言」というものがあり、町について調べ、中学生が町に対する想いを町長や教育長にプレゼン・提案するものである。さらに修学旅行では町の PR をし、町を知ってもらう授業がある。今考えてみるとそ

れがあってからこそ、私や清里町出身の人たちは町に対する想いが強い人が多いと考える。さらに私自身、将来はスポーツを通して恩返しがしたいとなった。今金プロジェクトでは実現が難しい所があるが、もし私たちが行った「地域提言」が今金町でできたなら、今金プロジェクトの大学生がその手伝いを行い、生徒の成長はもちろん郷土愛を育て、さらに学生の成長も見込めると考えている。これらのことから実行委員の方の意見からは、様々な視点からの意見が多く、私自身のもの見方が広がった。今後は、いつかはこの今金プロジェクトが何か一つでも実現できるように応援したり、何かしらの手伝いをしたいと考えている。

【スポーツ指導学科 3年 男】

まず始めに事前 FW と発表 PP の作成及びプレゼンについてですが、私は今回健康チームの一員としてウォールアートとピリカスロンについて調査を行いました。調査については同じチームのメンバーと協力、分担しあいながら取り組めて私としては非常に良い取り組みだったと感じます。しかし、PP 発表、スライドの発表準備の段階では 4 年生に頼りすぎている部分があり反省点となりました。発表も 4 年生に任せてしまいもっと当事者意識をもって積極的に発表に携わることが課題としてあげられるので今後の活動では修正していきたいと個人的に反省が残る発表でした。

次に実行委員会メンバーとの意見交換についてですが、実行委員会の方々と意見交流会を行い、今金の現状をいかにして改善、振興するかを自分なりに重要なことはメモをして少しでも役に立てるように参加出来ました。実行委員会の方々の今までの取り組みや、今金町に対する思いを無駄にしないように話し合いに参加したが、どうしても実行委員会の方が主体的に話して自分からは積極的に話をすることが出来ずに力のなさを実感しました。今後もう一度今金のプロジェクトが行われる場合は今金の方々と交流や意見を積極的に発信していくことはもちろん様々な場面に柔軟に対応することを頑張りたいと考えます。

最後に最初の FW の時から今回の FW で感じたことは、当初は右も左もわからずにプロジェクトに参加させていただいて学生だけが今金町をよくしようとしていると思っていたのですが、今回初めて実行委員会を介して打ち合わせや意見交流を行ったことによって私たち大学生はもちろん実行委員会の方たちも今金町民の一員として必死に試行錯誤を繰り返して良くしたいと強く思いこの活動をしていると気づきました。また、若い人から年配の方まで多くの力を合わせて地域振興を目指している姿が非常に素敵だと感じました。これからも私たち学生や、地域の方々と連携をとりながら最終的にはこのプロジェクトを成功という形で終わられるといいと思いました。

【スポーツ指導学科 3年 女】

健康スポーツグループでは事前にウォールアートの会社に電話で聞き取り調査をしたのと、トライアスロンについて自分たちで事前調査をしました。ウォールアートをダム内や壁面に施すのは費用がかかり、前例が少ないなどマイナス面が多くあったがマイナス面だけではなかったのでそこをどうにかできないかと 3 人で聞き取り調査をした後、どのようにしたら可能になるか、町民の皆さんの興味を引き立てる案を出せるかと試行錯誤しました。トライアスロンについては、北海道で開催しているトライアスロンのサイトを見て参加、主催に関して必要なことはなにかを調べました。トライアスロンはスイム・バイク・ランですが、ピリカ地区のピリカダムを活用してピリカスロンと称し、スイム・カヌー・ランと、提示しました。トライアスロンは個人種目ですがピリカスロンは 3 人一緒にカヌーを漕ぐことで団体競技として設定して、トライアスロンとの差別化を図りました。プレゼンでは、ただ私たちの調べたことを町民の方に押し付けるような発表をするのではなく、提案をするということを心がけてパワーポ

イントを作りました。たくさん文字を並べるのではなく、簡潔に伝えたいことだけを記し口頭で細かいことは説明しました。発表の後、実行委員会の方々と意見を交換の場では作成したパワーポイントの補足や、実行委員の方々からの質問に答えたり、私たちからも町民のみなさんがこのプロジェクトに対してどれほど取り組んでいるのかというのとも聞きました。わたしは意見を交換するまでは口だけなのではないかと思っていました。しかし直にみなさんの思っていることを聞いてみると、本気で起こしたいという気持ちが伝わってきて、「全部の発表を聞いたけど、一番現実的だし人がたくさん集まってきそうなので本当に実現したい。」と聞いた時本気でやればできるのではないかと思いました。わたしは、今期からしか携わっていないが研究する楽しさ、人と関わることの大切さを実感しました。誰かと何かを成し遂げる、他学科の方と関わる機会が今まで少なかったのでとてもいい刺激になったし、吸収する部分もたくさんありました。これを機に卒論などに向けて研究、発表の仕方など生かしていきたいと思いました。

【観光ビジネス学科 2年 男】

第一回目のフィールドワークでは、今金町についての知識を深め、昨年プロジェクトチームが提案した施策についてのヒアリング調査を行った。今回は第1回目のヒアリング調査の結果に基づいて、実際に今金町の実行委員会の方々の前でイベント概要についての発表を行ってきた。発表するにあたり今金町を訪れる前に事前にフィールドワークも行った。私たち観光チームは剣淵町の若手農家さんが行っている VIVA マルシェさんにお話を聞きに行き、ここでは軽トラを使い様々な地域に出向き、市場などでは売られていない質にこだわった野菜や剣淵町の特産物を販売している。そしてメンバー1人1人がそれぞれの野菜、特産物について細かく説明もしてくれ、とても感銘を受けた。このように様々な地域に出向くことで、地域アピールもでき知名度アップにも繋がってくるのでとても参考にできると思った。VIVA マルシェの代表者からお話の中で、他と同じことをやってもだめで他と何が違うのかが肝心とおっしゃっており、面白ければ自然とメディアは寄ってくると言っていた。まずアピールできるものを作り出すことが大事であり今金町には全国に知られているブランド芋でもある今金男爵があるのでアピール材料にはもってこいだと思った。水上ライブについては水上でライブを行っている例がなく、湖周辺でしかライブを行っていないと難航した。これらのことを踏まえ発表に備えた。発表当日はメンバー1人1人の頑張りもあり、よい発表で終わることが出来た。実行委員会メンバーとの意見交換では、主にマルシェのことについて話し合い、そのなかで、搾りたての牛乳を来てくれたお客さんに飲んでもらうことや、クアプラザを道の駅化して、ここでしか買うことのできない今金の特産物を売ったり、今金男爵をメイン使い料理教室のようなものを開いたりなど様々な意見が出た。何年か後には長万部まで新幹線が開通するので、長万部で降りたお客さんを何とか今金町に誘客し、これを狙い目にするのがこれからのポイントになるのではないかと思った。

【観光ビジネス学科 2年 女】

今回、私は交流チームとして、水上ライブとピリカマルシェについて研究してきました。この2つのイベントについてまず道内で参考になるイベントや地域がないか調査したところ、士別町の湖水まつり、剣淵町の VIVA マルシェを見つけ、それぞれの町に電話で問い合わせました。士別町の湖水まつりは湖の側で地域のまつりを開催しているようで、ピリカダム利用の目的とは、やや異なるようでした。一方、VIVA マルシェは販売している場所へ直接お話を伺えることができました。VIVA マルシェでは、生産者自らが販売することに価値を見出し、生産者が商品の魅力を、直接買い手に話すことで、リピーターを増

やし、他との差別化を図っていました。いかに地域の人やメディアを巻き込み、宣伝できるかが大切だと教えていただきました。また、てしかが観光塾に参加し、まちづくりについて多方面で活躍されている方にお話を伺うことができました。これらのフィールドワークや調査を踏まえ、私たちはイベントを企画するにあたってコンセプトとターゲットを定めるのが必要だと考え、その2つに沿った形で研究報告とすることを決めました。コンセプトは「ピリカ地区に来てもらうこと」、ターゲットは「今金のひとたち」。水上ライブは水上を観客席にし、ライブではなく、音楽を流しリラックスする場やプールとしてのダム利用を提案しました。ただダムの上に何か浮かべるのは、色々な許可がいることが懸念されました。また、マルシェでは単独で開催するのではなく、私たちが夏、実際にアンケート調査をしたピリカまつりやスキー場解禁に乗じて開く提案をしました。メインは今金男爵にして、生産者の負担や特別性を考え頻度は半年に1回にすることなど具体的なプランも紹介しました。実行委員会メンバーの方との意見交換の場では改めて今金プロジェクトの主旨を認識することができました。新幹線の延伸した際、通過点になってしまわないよう今金に寄ってもらえるような滞在型の観光を目指しているということでした。観光協会では、すでににぎわい商店街といった町に人が集まってもらえるようなイベントがありました。またクアプラザピリカではとれたて野菜市をやっていて、これをマルシェに拡大するのはどうかという案が出ました。またマルシェで物を売るだけじゃなく、それを入り口にして今金の情報発信につなげ、複合的な役割を持たせる案も出ました。販売する際、産地と販売する場所を表した「フードマイル」といったものを商品と一緒に表示することで、鮮度や地元の食材のアピールの場となる、という意見を頂き、実践しやすさ・わかりやすさではこの案が1番興味深かったです。実際に実行委員会メンバーの方とお話した中で、今金にある魅力的な観光資源を活かしていないと実感し、今回また今金について話し合うまで知らなかった情報が多かったことを反省しています。今回の研究が今金の地域解決の助力となれば幸いです。

【観光観光学科 2年 女】

事前のフィールドワークでは、剣淵町の viva マルシェの方にお話を聞かせていただいたり、「てしかが観光塾」に参加したことで、そもそもまちづくりとは何かということを根本的に学びなおすことができ、今かねプロジェクトに活用できることのほかにも、自分自身の学びを深めるきっかけとすることができました。これらの事を活かし、発表のパワーポイントを製作しましたが、情報や時間の不足から発表のぎりぎりに完成する形となってしまう、その部分に関しては反省が必要だと感じています。実行委員会の皆さんとの意見交流会では、学生側の今金町に対する認識の不足を感じました。例えば、今金町が全国から小学生を募り、里親制度と称してホームステイをしてもらいながら、今金町の小学校に通ってもらっていたということを聞きました。実行委員の中には「今金町にゆかりのなる人たちが全国にたくさんいるから、その人たちに今金町が元気であることを伝えたい」という人もいました。その他にも、いまかね男爵以外の特産として軟白ねぎがあることや、オールドウェディングのコンクールを開催したことがあることなど、今まで知り得なかった今金町のことを知ることができました。また、交流で出た意見として、キャンプ場でマルシェをする案や、その場で絞った牛乳を提供するという案、フードマイルを活用することで食材の新鮮さをアピールする案などがありました。もちろん、比例するように問題点や、現実的に難しいポイントなどがあがりましたが、工夫によっては実現可能な案もありました。この先のプロジェクトがどのように進んでいくのかは未知数ですが、参加させていただいている以上、自覚と責任をもって活動していきたいです。

【観光観光学科 2年 男】

今回、今金プロジェクトでのフィールドワークについて述べていきたい。事前フィールドワークは、株式会社けんぶち VIVA マルシェ様にお話を伺った。お話を伺ったなかで、マルシェの発展に関わるヒントを得ることができた。それを踏まえて、パワーポイント、プレゼンをいかに伝えやすくするかを考え、実際のプレゼンを行った。実行委員会メンバーとの意見交換では、元々ピリカに住んでいた方の意見を聞いたこと、今金町の入口としてピリカ地区を盛り上げたいということ、ピリカ地区の発展を望んでない方もいるなかで、住民のことも気かけつつ発展していきたいという意見を聞くことができた。そして、地産地消を目指すなかで、フードマイレージを取り入れるのはどうかという話し合いもなされた。今回、今金町を訪れ、意見交換をしたなかで様々な意見などが挙がっており、実行委員会の方々も真剣に考えてくれていたことから、今金町を盛り上げたいという気持ちを再認識することができた。また、石田屋での昼食、ダムカレーを食べて今金男爵のおいしさを感じられたとともに、地元の方に食べてもらい、地産地消のサイクルを発生させることができれば良いと考えた。魅力的なものがあるため、地域内での連携、宣伝やターゲットなどしっかり定めていくことができれば発展するのではないかと考える。今年度、今金プロジェクトに参加していくなかで、前年度までの活動内容や提案までの流れなどを前年度のメンバーからお話を聞く機会がなく、今回のパワーポイント、プレゼンを作っていくなかで詰まる場所などがあったので、前年度のメンバーと合同のミーティング、もしくは、各チームでのミーティングをし、次年度のメンバーとの共有、引き継ぎをしっかりとすることを提案したい。引き継ぎをしっかりと行うことで、今金プロジェクトをより良い活動にしていけると考える。

【現代文化学科 3年 女】

今回のフィールドワークでは、去年に引き続き企画したプロジェクト「スタンプラリー」について調査し、実現するためにこういうことが考えられるという発表を行いました。調査は歴史班として、まず、アプリ開発会社への聞き取り調査、全国各地でどのような事例があるのかという事例調査。そして、札幌国際大学で教鞭をとってくださっている曾我先生の大学（千歳科学技術大学）への技術的の調査へ行きました。私たちはアプリ開発会社への調査を踏まえ、技術的な面でまだ調査したりないと思い、科学技術大学へ調査を行いました。その調査結果を踏まえて今金の実行委員の方々への発表を行いました。専門的なことも多く、今金の実行委員の方々に私たちのPPで伝えることが出来るのかということなど多くの不満もありましたが、意見交換会では実行委員の方々と交え色々は側面からの意見交換をすることが出来て、これからにつなげることの出来る意見交換が出来たのではないかと思います。そこで出た意見では、私たち大学生の知らない、今金の町民の皆様だからこそ知る事の出来る今金の魅力を感じることが出来ました。それと同時に当たり前のことですが、今金町の魅力を私はまだまだ十分には分かっていないと自覚しました。今金にはまだまだたくさんの魅力があり、魅力になりうる素材が眠っていると感じました。私は、二年生からこのプロジェクトに参加しスタンプラリーを提案し、今回の調査に加わることができたことは本当にうれしいことで、さらに貴重な体験をさせていただけたと思います。これから先、スタンプラリーのプロジェクトがどうなっていくのかはわかりませんが、今金の更なる観光向上に生かしていただき、今金の自然の良さ、歴史的文化遺産の良さを町民の方々、町外の方々にも広まっていくと願っています。二年通してこのプロジェクトに関わることが出来て、私は成長できたのではないかと考えています。

【現代文化学科 3年 女】

歴史班の今までの取り組みでは、歴史を絡めたスタンプラリーを町民の方々と共に作成したり、観光や郷土教育に活用したりするといった解決策があげられました。その結果、町内の方が美利河地区の歴史をより深く知り今金や美利河地区の歴史を町外に発信するきっかけになることが考えられました。スタンプラリーを実施する方法として、デジタル機器などを用い、インターネット上でスタンプを取得することができるデジタル型が、用紙の管理やスタンプの保管などの面を見れば現実的であると考えられました。デジタル型のスタンプラリーの事例として「RALLY」という、アプリでスタンプラリーを作成する会社と千歳科学技術大学の活動に着目しました。「RALLY」では電話での聞き取り調査を行い、具体的な製作方法や費用について調査しました。スタンプラリーは3種類ありどれも手軽に作成することが出来るものでした。費用は無料版と有料版に分かれ、それぞれ使用可能期間が違うことが分かりました。そして、千歳科学技術大学にはフィールドワークに行きました。千歳科学技術大学では、「RALLY」のようなスタンプラリーの取り組みだけでなく、デジタルブックやVRの活用も行っていました。私達にはない、別の視点からの様々なアプローチ、アイデアをもらい、多くの可能性を見出すことができました。

以上の事前調査をもとにプレゼンテーションを作成しました。発表は当日のリハーサルなど練習を重ねましたが、少しばかり聞き手を意識できていないなと思う点があった為、次に活かしていきたいと考えました。今金町実行委員会の方々と意見交換会では、スタンプラリーを用いて旧石器文化館を軸に、ピリカカイギュウやマンガン鉱跡へと広がっていくことで様々な場所や歴史を知ってもらえるのではないかと意見がまとまりました。その他にも、地元の人知っているおすすめスポットや初めて美利河地区に訪れた人向けに簡単な地図が見られるような機能があったら良いなどの意見も出ました。今までは遺跡だけに着目していましたが、今回の意見交換会で、遺跡だけでなく、ダムや美利河地区の風景も歴史に含まれると気が付きました。また、美利河地区の歴史をストーリー化することでより分りやすく学ぶことができると考えられました。

平成 30（2018）年度 奨励研究

住民との協働による能動的学修の展開
～今金町美利河地区をフィールドとしたプロジェクト学習の推進～

事業報告書

平成 31 年 3 月

札幌国際大学

〒004-8602 札幌市清田区清田 4 条 1 丁目 4-1

TEL 011-881-8844

